

# 地域の安全・安心のために

10月11日は「安全・安心なまちづくりの日」です。「安全・安心なまちづくりの日」は2005年12月に制定され、毎年10月11日から10月20日の期間中に「全国地域安全運動」が展開されています。

「安全・安心」は私たちが生活をしていく上で欠かせないものです。6月に町内で強盗事件が発生するなど、鏡石町内でも安全・安心を脅かす事件が発生しております。今月号では、地域の安全・安心について特集します。



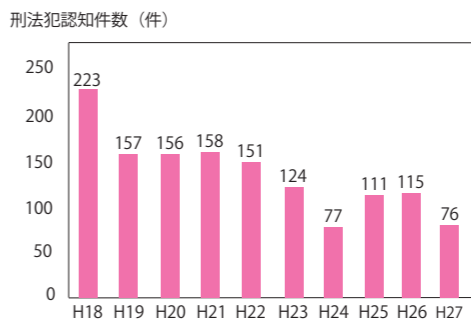
## 福島県内の状況

福島県内の犯罪発生状況は、平成27年中の刑法犯認知件数が12,791件で、10年前の平成17年の件数が24,529件でしたので、ここ10年で半減しております。

刑法犯全体の約7割が、物を盗んだりする窃盗犯で、近年は忍び込みや倉庫荒らしなどの侵入窃盗が増加しています。被害の約4割が無施錠の窓などから侵入されていますので、ドアや窓にしっかりと施錠することが重要です。

## 鏡石町の状況

鏡石町の犯罪発生状況は、平成27年中の刑法犯認知件数



種別	H 28	H 27	前年比
空き巣・忍び込み	6	1	+5
自転車盗難	13	7	+6
万引き	4	4	0
詐欺	4	2	+2
器物破損	4	2	+2
その他	29	18	+11
合計	60	34	+26

話が多数かかってきており、引き続き注意が必要です。

## 防犯パトロール

町内の犯罪発生率が高い水準で推移していたことから、対策として平成13年に「やすらぎとるおいのある牧場の朝のまち地域安全条例」が制定されました。この条例に基づき、行政区や商工会、金融機関、教育機関の有志からなる町地域安全活動推進員が組織されました。この推進員と、須賀川警察署防犯指導隊鏡石分隊の皆さんにより、平成17年に「防犯対策会議」が結成され、防犯パトロールとしての「青パト」活動や、活動報告や情報交換を行う2か月に1回の定例会が実施されています。

「青パト」とは、青色の回転灯を点灯させて行う自主防犯パトロールのことです。通常、自動車に青色回転灯を装備することは禁止されていますが、福島県警本部長の証明を受け、許可を受けて実施しています。3人で1チームとなり、週に1度活動しています。



防犯対策会議 第3班班長 小貫誠さん

ショッピングセンターやJR鏡石駅、鳥見山公園、地下歩道などを基本ルートとして、会議の中で要箇所所的情報が出れば、その場所を重点的に巡回します。防犯パトロールに携わって6年になりますが、いまだに自動車や自転車の無施錠は多く、まだまだ粘り強く活動していく必要性を感じています。

防犯パトロールは、すぐに目に見えて効果が現れるものではありませんが、日々の地道な活動が徐々に効果を現すものだと思います。この活動を継続していくことにより、地域の皆さんの防犯意識の向上につながればと考えています。

## 駐在所の所長に伺いました

### 1人ひとりの心掛けが重要です

駐在所では、パトロールのほかに各家庭に対する巡回連絡を行っています。その際、希望があれば住宅の防犯状況チェックもしており、条件を満たしている住宅には「防犯対策推進の家」のステッカーをお渡しする取組も行っていきます。

鏡石町は交通の便がいい反面、町外からもアクセスしやすく、防犯上は注意が必要です。のどかで人柄が良い地域性のためか、家や車の鍵をかけていないお宅も多いです。犯罪は対岸の火事ではなく、誰の身にも起こりうるものです。自分の身にも降りかかる可能性があるということを自覚し、1人ひとりが防犯を心掛けていくことが地域全体での安全・安心につながっていくと思います。



須賀川警察署 鏡石駐在所 班長 大和田史佳さん

す。啓発テープを流しながら町内を巡回し、JR鏡石駅前や鳥見山公園、地下歩道ショッピングセンターなどを見回ります。

青パトを使用した防犯パトロールは、夜間でも人目に付きやすく、広い範囲をパトロールできるといったメリットがあります。こういった活動をする事により、防犯に対する意識の高い地域であることを示すことで、犯罪を未然に防ぐ効果が期待できます。

## 個人でできる対策は

町内の犯罪発生状況としては、空き巣・忍び込み、自転車盗難が多い傾向にあります。



パトロールに出発する推進員



ツーロックが効果的

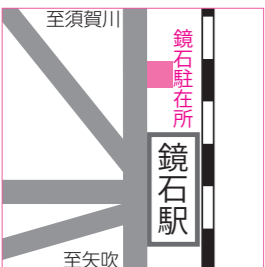
放送されているにも関わらず、被害が後を絶ちません。防犯の意識を高めることが、怪しい電話を見破ることもつながります。まずは就寝前の戸締りチェックなど、身の回りから防犯に対して取り組むことで、防犯意識を高めます。

## 地域の安全は地域で守る

犯罪者が最も嫌がるのは「人の目」です。これから犯罪に及ぼうとしている時、下見をしている時などに、顔を見られる、声をかけられる(挨拶される)ことで、犯罪者が犯罪を思いとどまる可能性が高まります。

地域コミュニティの希薄化が叫ばれる現代社会ですが、地域のつながりを大事にし、隣近所への気遣い、「あいさつ」などの声掛けをすることが防犯につながります。住民1人ひとりの「地域の目」が最も効果的な防犯活動になるのです。犯罪のない、「安全・安心なまちづくり」のために、地域で一体となって取り組んでいきましょう。

## INTERVIEW



鏡石駐在所 ☎62-2012